

山鹿、植木、熊本北、大津」の9飛行場とされる。また、防衛庁戦史資料室内の陸軍資料「陸作命甲第二号 別紙資料 飛行場配置要図」に飛行場名がある。「30FC」として熊本県内「隈庄、人吉」と、鹿児島県内「知覧、萬世、上別府」、宮崎県内「都城西、都城東、木脇、唐瀬原、新田原」の南九州グループと一体化した事情が見て取れる。

- 写真4-36は、飛龍の天井部コクピットから、身を乗り出す「ソーレン」氏とされる人物。後の飛龍尾翼には「229」番が描かれている。
- 写真4-37は、飛龍の列機で5機がほぼ一直線に並ぶ。背景には雁回山系の山裾が見える。駐機場所は、飛行場中央部の滑走路脇と想定できる。
- 写真4-38は、解体されバラバラになり、主翼が直立した飛龍機体に焼却のため、火が放たれた直後の様子である。
- 写真4-39は、写真38同様に航空機焼却の場面で、左側及び右側は双発大型機が、中央には単発復座の一式高等練習機が見える。
- 熊本県内における、陸軍四式重爆撃機「飛龍」の配備は、健軍飛行場（飛行第六〇戦隊）と隈庄飛行場（飛行第一〇戦）で、尾翼カラーリング等から、写っている機体は「一〇戦隊機」と判断できる。



写真4-35 熊本県の隈庄飛行場に並んだ旧日本陸軍の軍用機(1945-46年、ヘンリー・H・ソウレン撮影)

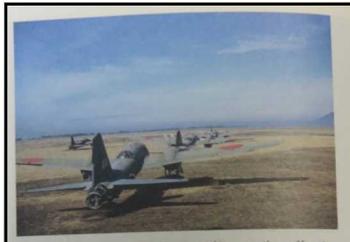


写真4-37 並ぶ「飛龍」(1945-46年、ヘンリー・H・ソウレン撮影)



写真4-36 旧日本陸軍の爆撃機「飛龍」のコクピットから身を乗り出すソウレン(1945-46年)



写真4-38 武装解除で処分された軍用機(1945-46年、ヘンリー・H・ソウレン撮影)



参考資料

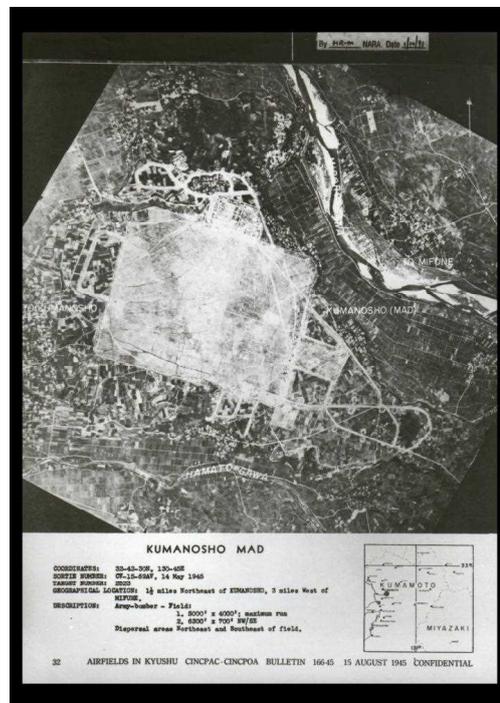
左上：同書112頁（写真4-35・4-36）
 右上：113頁（写真4-37・4-38）
 下：114・115頁（写真4-39）
 『占領期 カラー写真を読む』より掲載

4 まとめ

- オキュパイトジャパン期での「隈庄飛行場での初めての接收写真」の確認である。
- 本スライドは軍務中の撮影ではあるが、オフィシャルな米国国立公文書館（NARA）等の所蔵ではなく、**撮影者個人が所蔵するカラースライド群**である。その後、諸経緯のもと日本側で収集されたものである。今後、同様の資料がインターネット上で収集されたり、大学図書館等のネット公開により、さらに発見・確認される可能性は高い。
- なお、本スライドの撮影部隊、日時、状況等は、継続調査中である。

写真4「KUMANOSHO MAD」

米空母ランダルフ（CV15）撮影の戦闘報告記載の空中撮影写真。滑走路は中央部で東西方向、北側には吉野山、周囲には飛龍用の無蓋掩体壕が見える。



連絡先

□くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
 個人携帯 090-1513-5528
 Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
 HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/